

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人名古屋市立大学

(2) 大学名

名古屋市立大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
〒467-8603 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地
(〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コオリ ケンジロウ) 郡 健二郎 (平成30年4月)		
学長	(アサイ キヨフミ) 浅井 清文 (令和4年4月)		
学部長	(ミサワ テツヤ) 三澤 哲也 (令和5年4月)		
学科長等	該当なし		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
データサイエンス学部 データサイエンス学科 学士(データサイエンス)	経済学関係 理学関係 工学関係	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	80				
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)				
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	188				
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)				
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	161				
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)				
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	82				
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)				
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	80				
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)				
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
入学定員超過率 B/A													1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
- ・ なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項より修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	80 -
2年次	/		[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)
4年次	/				[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)
計			[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学生数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	80人	0人	平成30年度	-人	-人	
			令和元年度	-人	-人	
			令和2年度	-人	-人	
			令和3年度	-人	-人	
			令和4年度	-人	-人	
			令和5年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{80} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<データサイエンス学部 データサイエンス学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般 教 養 科 目	社会人になるA	1前	2								1
	社会人になるB	1後	2								1
	名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	1前・後	2								1
	ESDと地域の環境	1後	2								1
	日本国憲法	1前・後	2								1
	なぜ憲法が必要なのか	1前	2								1
	人と法と医療	1前	2								2
	経済学:経済のしくみ	1前	2								1
	経済学:経済と社会	1前	2								1
	経済学:経済学の考え方	1前	2								1
	経営学:企業活動の諸相	1後	2			1					
	経営学:組織を取り巻く諸環境について	1後	2								2
	社会学A	1後	2								2
	社会学B	1後	2								1
	社会学C	1後	2								1
	環境行動学と情報リテラシー	1前	2								1
	平和論	1後	2								3
	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	1前	2								1
	フィールド研究からみるアジア	1前	2								4
	キー・コンピテンシー	1後	2								1
	人類学	1後	2								1
	日本語コミュニケーション	1後	2								1
	囲碁に学ぶ	1後	2								1
	東ヨーロッパの文化と歴史	1後	2								1
	欧州史の中の北欧史	1後	2								1
	アメリカ史入門	1前・後	2								1
	都市と地域構造の地理学	1前	2								1
	自分とみんなで考える哲学	1前・後	2								1
	心理学概論	1後	2								1
	心理学入門	1後	2								1
	現代教育の諸相	1前	2								2
	次世代育成と地域の課題	1後	2								2
	宗教学入門	1後	2								1
	科学史	1後	2								1
	都市と自然	1前	2								3
	宇宙のなりたち	1後	2								1
	植物とバイオテクノロジー	1前	2								1
	エネルギーのサイエンス	1後	2								5
	バイオサイエンス入門	1後	2								3
	情報と数理の世界	1後	2								7
	地球史入門	1後	2								1
	地域生態学	1後	2								1
小計(42科目)	-	-	84		1	0	0	0	0	62	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般 教 養 科 目	社会人になるA	1前	2								1
	社会人になるB	1後	2								1
	名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	1前・後	2								1
	ESDと地域の環境	1後	2								1
	日本国憲法	1前・後	2								2
	なぜ憲法が必要なのか	1前	2								1
	人と法と医療	1後	2								2
	経済学:経済のしくみ	1前	2								1
	経済学:経済と社会	1前	2								1
	経済学:経済学の考え方	1前	2								1
	経営学:企業活動の諸相	1後	2								3
	経営学:組織を取り巻く諸環境について	1後	2								2
	社会学A	1後	2								2
	社会学B	1後	2								1
	社会学C	1後	2								1
	環境行動学と情報リテラシー	1前	2								4
	平和論	1後	2								3
	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	1後	2								1
	フィールド研究からみるアジア(未開講)	1前	2								-
	キー・コンピテンシー	1後	2								1
	人類学	1前	2								1
	日本語コミュニケーション	1後	2								1
	囲碁に学ぶ	1後	2								1
	東ヨーロッパの文化と歴史	1後	2								1
	欧州史の中の北欧史	1後	2								1
	アメリカ史入門	1前・後	2								1
	都市と地域構造の地理学	1前・後	2								1
	自分とみんなで考える哲学	1前・後	2								1
	心理学概論	1後	2								1
	心理学入門	1後	2								1
	現代教育の諸相	1後	2								2
	次世代育成と地域の課題	1後	2								2
	宗教学入門	1前	2								1
	科学史	1後	2								1
	都市と自然	1前	2								3
	宇宙のなりたち	1後	2								1
	植物とバイオテクノロジー	1前	2								1
	エネルギーのサイエンス	1後	2								5
	バイオサイエンス入門	1後	2								3
	情報と数理の世界	1後	2								5
	地球史入門	1前・後	2								1
	地域生態学	1後	2								1
小計(42科目)	-	-	84		1	0	0	0	0	63	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
語 学 科 目	IS: Community	1前・後	1								1
	IS: Social Justice	1前・後	1								1
	IS: Life & Work	1前・後	1								1
	IS: Health & Well-being	1前・後	1								1
	IS: The Arts	1前・後	1								1
	AE: Make a Difference in Your Community	1前・後	2								1
	AE: Interact Internationally	1前・後	2								1
	AE: Improve Life Skills	1前・後	2								2
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前・後	2								1
	AE: Produce a Movie	1前・後	2								1
	CS: Presentation	1前・後	2								6
	CS: Grammar and Usage	1前・後	2								4
	CS: TOEIC Preparation	1前・後	2								3
	EM: World News	1前・後	2								4
	EM: Popular Culture	1前・後	2								4
	EM: Reading for Inspiration	1前・後	2								5
	EM: Online Articles and Videos	1前・後	2								5
	ドイツ語初級1	1前・後	2								4
	ドイツ語初級2	1後	2								3
	フランス語初級1	1前・後	2								3
	フランス語初級2	1後	2								2
	中国語初級1	1前・後	2								6
	中国語初級2	1後	2								5
	韓国語初級1	1前・後	2								3
	韓国語初級2	1後	2								2
	スペイン語初級1	1前・後	2								3
	スペイン語初級2	1後	2								2
	日本手話初級1	1前・後	2								3
	日本手話初級2	1後	2								2
	ポルトガル語入門	1後	2								1
	ロシア語入門	1前	2								1
	イタリア語入門	1後	2								1
	アラビア語入門	1前	2								1
小計(33科目)	-	0	61								54
健康・スポーツ 科目	健康・スポーツ科学	1前	2								6
	小計(1科目)	-	2	0	0	0	0	0	0	0	6

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
語 学 科 目	IS: Community	1前・後	1								1
	IS: Social Justice	1前・後	1								1
	IS: Life & Work	1前・後	1								1
	IS: Health & Well-being	1前・後	1								2
	IS: The Arts	1前・後	1								1
	AE: Make a Difference in Your Community	1前・後	2								2
	AE: Interact Internationally	1前・後	2								1
	AE: Improve Life Skills	1前・後	2								1
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前・後	2								1
	AE: Produce a Movie	1前・後	2								1
	CS: Presentation	1前・後	2								6
	CS: Grammar and Usage	1前・後	2								5
	CS: TOEIC Preparation	1前・後	2								5
	EM: World News	1前・後	2								5
	EM: Popular Culture	1前・後	2								4
	EM: Reading for Inspiration	1前・後	2								4
	EM: Online Articles and Videos	1前・後	2								6
	ドイツ語初級1	1前・後	2								4
	ドイツ語初級2	1後	2								3
	フランス語初級1	1前・後	2								3
	フランス語初級2	1後	2								2
	中国語初級1	1前・後	2								5
	中国語初級2	1後	2								5
	韓国語初級1	1前・後	2								3
	韓国語初級2	1後	2								3
	スペイン語初級1	1前・後	2								3
	スペイン語初級2	1後	2								3
	日本手話初級1	1前・後	2								4
	日本手話初級2	1後	2								3
	ポルトガル語入門	1前・後	2								1
	ロシア語入門	1前・後	2								1
	イタリア語入門	1前・後	2								1
	アラビア語入門	1前・後	2								1
小計(33科目)	-	0	61								55
健康・スポーツ 科目	健康・スポーツ科学	1前	2								4
	小計(1科目)	-	2	0	0	0	0	0	0	0	4

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任														
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手															
専 門 基 礎 科 目	情報処理1 (R,Python,Excelマクロスクリプト作成)	1前	2			2	1																		
	データサイエンス入門	1前	2			9	4	1																	
	微積分学1(1変数の微積分学)	1前	2			1																			
	微積分学2(多変数関数と応用解析)	1後	2			1																			
	線形代数学1(行列と行列式)	1前	2			1																			
	線形代数学2(線形空間論)	1後	2			1																			
	情報科学概論	1後	2			1																			
	統計分析基礎1(記述統計と多変数解析の基礎)	1後	2			1																			
	情報の法とセキュリティ	1前	2						1																1
	情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)	2前	2			2				1															
	データ構造とアルゴリズム論	2前	2			1																			
	データベース	2前	2						1																
	情報数学	2前	2			1																			
	機械学習基礎	2後	2			1																			
	人工知能概論	2前	2			1																			
	統計分析基礎2(確率論、推測統計基礎)	2前	2			1																			
	実験計画法	2後	2			1																			
	テキストマイニング	2後	2						1																
	データ処理と可視化	2後	2						1																
	多変数解析1(回帰分析)	2前	2			1																			
	統計分析基礎3(推測統計展開)	2後	2			1																			
	ミクロ経済学	2前	2							1															
マクロ経済学	2後	2			1				1																
財務情報と経営分析	2前	2			1																				
医療とデータサイエンス	2後	2			1			2																	
小計(25科目)	-		30	20		9	4	1	0	0														1	
専 門 発 展 科 目	データマイニング	3前			2		1	1																	
	データ調査技法	3前			2		1																		
	実践データサイエンス活用(特別講義)	3前			2		2																		
	情報処理3(C言語・Pythonプログラミング)	3前			2				1																
	機械学習発展	3前			2		1	1																	
	多変数解析2(主成分・因子分析、判別分析)	3前			2		1	1																	
	数値モデルとシミュレーション	3前			2		1																		
	確率統計解析	3後			2		2																		
	ベイズ統計	3後			2		1																		
	画像処理とパターン認識	3後			2		1	1																	
	情報アクセスシステム	3後			2				1																
	応用情報数学	3後			2		1																		
小計(12科目)	-		0	24		8	3	0	0	0													0		

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任														
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手															
専 門 基 礎 科 目	情報処理1 (R,Python,Excelマクロスクリプト作成)	1前	2			2	1																		
	データサイエンス入門	1前	2			9	4	1																	
	微積分学1(1変数の微積分学)	1前	2			1																			
	微積分学2(多変数関数と応用解析)	1後	2			1																			
	線形代数学1(行列と行列式)	1前	2			1																			
	線形代数学2(線形空間論)	1後	2			1																			
	情報科学概論	1後	2			1																			
	統計分析基礎1(記述統計と多変数解析の基礎)	1後	2			1																			
	情報の法とセキュリティ	1前	2						1																1
	情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)	2前	2			2				1															
	データ構造とアルゴリズム論	2前	2			1																			
	データベース	2前	2						1																
	情報数学	2前	2			1																			
	機械学習基礎	2後	2			1																			
	人工知能概論	2前	2			1																			
	統計分析基礎2(確率論、推測統計基礎)	2前	2			1																			
	実験計画法	2後	2			1																			
	テキストマイニング	2後	2						1																
	データ処理と可視化	2後	2						1																
	多変数解析1(回帰分析)	2前	2			1																			
	統計分析基礎3(推測統計展開)	2後	2			1																			
	ミクロ経済学	2前	2							1															
マクロ経済学	2後	2			1				1																
財務情報と経営分析	2前	2			1																				
医療とデータサイエンス	2後	2			1			2																	
小計(25科目)	-		30	20		9	4	1	0	0														1	
専 門 発 展 科 目	データマイニング	3前			2		1	1																	
	データ調査技法	3前			2		1																		
	実践データサイエンス活用(特別講義)	3前			2		2																		
	情報処理3(C言語・Pythonプログラミング)	3前			2				1																
	機械学習発展	3前			2		1	1																	
	多変数解析2(主成分・因子分析、判別分析)	3前			2		1	1																	
	数値モデルとシミュレーション	3前			2		1																		
	確率統計解析	3後			2		2																		
	ベイズ統計	3後			2		1																		
	画像処理とパターン認識	3後			2		1	1																	
	情報アクセスシステム	3後			2				1																
	応用情報数学	3後			2		1																		
小計(12科目)	-		0	24		8	3	0	0	0													0		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
データサイエンス応用科目	計算機シミュレーション	3・4後	2			1						1
	情報通信基礎とIoT	3・4前	2									
	計測装置・自然観測論	3・4後	2			1						
	人間工学	3・4前	2			1						
	ビッグデータ活用	3・4前	2			2	1					
	財務情報分析	3・4前	2			1						
	金融工学	3・4後	2			1						
	計量経済学	3・4前	2			1						
	応用経済理論	3・4後	2					1				
	ベンチャー経営	3・4前	2									1
	金融論	3・4前	2									1
	財政学	3・4前	2									1
	国際経済学	3・4後	2									1
	マーケティングサイエンス	3・4後	2									1
	経営戦略	3・4後	2									1
	小計(19科目)	-	0	38		7	2	1	0	0	0	7
専門演習科目	PBL演習1	2前	2			9	4	1				
	PBL演習2	2後	2			9	4	1				
	PBL演習3	3前	2			9	4	1				
	PBL演習4	3後	2			9	4	1				
	卒業研究1	4前	4			9	4	1				
	卒業研究2	4後	4			9	4	1				
小計(6科目)	-	16	0	0	9	4	1	0	0	0	0	
合計(138科目)	-											126
卒業要件及び履修方法												
<p>教養教育科目から必修2単位を含む24単位以上(うち英語科目(IS,AE,C,SEM)から6単位以上)、専門科目のうち、専門基礎科目から必修30単位を含む40単位以上、専門展開科目のうち、専門発展科目から16単位以上、データサイエンス応用科目から28単位以上、専門科目のうち、専門演習科目から必修16単位、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:年間48単位)</p> <p>【進級要件】 3年次終了時において、次の各号に示す単位を修得していなければ、4年次に進級することができない。 教養教育科目:必修単位数 8単位、選択単位数 12単位 合計20単位 専門科目: 専門基礎科目:必修単位数 30単位、選択単位数 10単位 合計40単位 専門展開科目: 専門発展科目:選択単位数 10単位 合計10単位 データサイエンス応用科目:選択単位数 18単位 合計18単位 専門演習科目:必修単位数 6単位 合計6単位</p> <p>【CAP制】 1学期に履修可能な単位数の上限は合計で24単位である。ただし直前の学期のGPAにより、履修登録できる上限単位数が半期あたり最大4単位加算される。</p>												

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
データサイエンス応用科目	計算機シミュレーション	3・4後	2			1						1
	情報通信基礎とIoT	3・4前	2									
	計測装置・自然観測論	3・4後	2			1						
	人間工学	3・4前	2			1						
	ビッグデータ活用	3・4前	2			2	1					
	財務情報分析	3・4前	2			1						
	金融工学	3・4後	2			1						
	計量経済学	3・4前	2			1						
	応用経済理論	3・4後	2					1				
	ベンチャー経営	3・4前	2									1
	金融論	3・4前	2									1
	財政学	3・4前	2									1
	国際経済学	3・4後	2									1
	マーケティングサイエンス	3・4後	2									1
	経営戦略	3・4後	2									1
	小計(19科目)	-	0	38		7	2	1	0	0	0	7
専門演習科目	PBL演習1	2前	2			9	4	1				
	PBL演習2	2後	2			9	4	1				
	PBL演習3	3前	2			9	4	1				
	PBL演習4	3後	2			9	4	1				
	卒業研究1	4前	4			9	4	1				
	卒業研究2	4後	4			9	4	1				
小計(6科目)	-	16	0	0	9	4	1	0	0	0	0	
合計(138科目)	-											126
卒業要件及び履修方法												
<p>教養教育科目から必修2単位を含む24単位以上(うち英語科目(IS,AE,C,SEM)から6単位以上)、専門科目のうち、専門基礎科目から必修30単位を含む40単位以上、専門展開科目のうち、専門発展科目から16単位以上、データサイエンス応用科目から28単位以上、専門科目のうち、専門演習科目から必修16単位、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:年間48単位)</p> <p>【進級要件】 3年次終了時において、次の各号に示す単位を修得していなければ、4年次に進級することができない。 教養教育科目:必修単位数 8単位、選択単位数 12単位 合計20単位 専門科目: 専門基礎科目:必修単位数 30単位、選択単位数 10単位 合計40単位 専門展開科目: 専門発展科目:選択単位数 10単位 合計10単位 データサイエンス応用科目:選択単位数 18単位 合計18単位 専門演習科目:必修単位数 6単位 合計6単位</p> <p>【CAP制】 1学期に履修可能な単位数の上限は合計で24単位である。ただし直前の学期のGPAにより、履修登録できる上限単位数が半期あたり最大4単位加算される。</p>												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・「日本国憲法」の担当教員（1名の教員が前期・後期の2回担当）を前期後期それぞれ、別の教員が担当することに変更したことによる人数変更（1名⇒2名）
- ・「人と法の医療」の開講学期を「前期」から「後期」に変更
- ・「経営学：企業活動の諸相」の科目の担当教員を専任教員から兼担教員のオムニバス科目に変更
- ・「環境行動学と情報リテラシー」の担当教員数を変更（1名→4名）
- ・「私たちの暮らしと政治・行政・地方自治」の担当教員が育児休業取得のため、「前期」から「集中講義」に変更
- ・「人類学」の開講学期を「後期」から「前期」に変更
- ・「都市と地域構造の地理学」の開講学期を「前期」から「前・後期」に変更
- ・「自分とみんなで考える哲学」の開講学期を「前・後期」から「前期」に変更
- ・「現在教育の諸相」の開講学期を「前期」から「後期」に変更
- ・「宗教学入門」の開講学期を「後期」から「前期」に変更
- ・「都市と自然」の担当教員数を変更（1名→3名）
- ・「情報と数理の世界」の担当教員数を変更（7名→5名）
- ・「地球史入門」の開講学期を「後期」から「前・後期」に変更
- ・教育効果を高めるため、科目区分「語学科目」の下記の科目の兼担教員数を追加
「IS: Health & Well-being」（1名→2名）、「AE: Make a Difference in Your Community」（1名→2名）、「CS: Grammar and Usage」（4名→5名）、「CS: TOEIC Preparation」（3名→5名）、「EM: World News」（4名→5名）、「EM: Online Articles and Videos」（5名→6名）、「韓国語初級2」（2名→3名）、「スペイン語初級2」（2名→3名）、「日本手話初級1」（3名→4名）、「日本手話初級2」（2名→3名）
- ・「AE: Improve Life Skills」の担当教員数を変更（2名→1名）
- ・「EM: Reading for Inspiration」の担当教員数を変更（5名→4名）
- ・「中国語初級1」の担当教員（兼任）1名が就任辞退のため、担当教員数を変更（6名→5名）
- ・「ポルトガル入門」の開講学期を「後期」から「前・後期」に変更
- ・「ロシア語入門」の開講学期を「前期」から「前・後期」に変更
- ・「イタリア語入門」の開講学期を「後期」から「前・後期」に変更
- ・「アラビア語入門」の開講学期を「前期」から「前・後期」に変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
22 科目	116 科目	0 科目	138 科目	22 科目 [0]	116 科目 [0]	0 科目 0	138 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	フィールド研究からみるアジア	2	1前	一般	選択	担当教員の都合により未開講とし、代替措置無
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見：文化・歴史に関する科目は数多く開講しており、教育及び履修に支障は無い。

学生への周知方法：ガイダンス時に非開講である旨記載した紙面を配布し、周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{138} = \boxed{0.72} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋市立緑市民病院の本 学医学部附属病院化に伴い 校舎敷地を修正		
	校舎敷地	233,159.73㎡ 241,654.45㎡	0㎡	0㎡	233,159.73㎡ 241,654.45㎡			
	運動場用地	20,467.98㎡	0㎡	0㎡	20,467.98㎡			
	小 計	253,627.71㎡ 262,122.43㎡	0㎡	0㎡	253,627.71㎡ 262,122.43㎡			
	そ の 他	6,296.06㎡	0㎡	0㎡	6,296.06㎡			
	合 計	259,923.77㎡ 268,418.49㎡	0㎡	0㎡	259,923.77㎡ 268,418.49㎡			
(2) 校 舎	専 用	125,268.4㎡ 125,315.5㎡ -(125,268.4㎡) (125,315.5㎡)	0㎡	0㎡	125,268.4㎡ 125,315.5㎡ -(125,268.4㎡) (125,315.5㎡)	記載誤りの修正		
	共 用	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	78室 84室	演 習 室 152室 141室	実験実習室 147室 155室	情報処理学習施設 6室 7室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0 人)	看護学部の実習室及び学部 新設等に伴う用途変更による 修正	
	新設学部等の名称	データサイエンス学部 データサイエンス学科			14 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、学術雑誌、視聴覚資料 は学部単位での特定不能なため、 電子ジャーナル数はキャンパス 単位の計上が困難なため、 全学数。 図書、学術雑誌、視聴覚資料、 電子ジャーナルの計上方法は 前年度と同様(5) 教育環境の充実を図るための 整備による増加
	データサイエ ンス学部	586,603 [183,721] -(573,409) [182,405] (578,782 [182,994])	6,797 [2,238] -(6,643 [2,222]) (6,648 [2,223])	40,403 [38,962] 41,754 [40,251] -(40,403) [38,962] (41,754 [40,251])	429 (429)	755 (755)	5,999 (5,999)	
	計	586,603 [183,721] -(573,409) [182,405] (578,782 [182,994])	6,797 [2,238] -(6,643 [2,222]) (6,648 [2,223])	40,403 [38,962] 41,754 [40,251] -(40,403) [38,962] (41,754 [40,251])	429 (429)	755 (755)	5,999 (5,999)	
(6) 図 書 館	面 積	7,240.65㎡ 7,785.00㎡		閱 覧 座 席 数	516	収 納 可 能 冊 数	777,972	大学全体
	面 積	2,148.00㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要			記載誤りの修正	
(7) 体 育 館	テニスコート、トレーニングルーム、プール、弓道場、野球場、馬場							
(8) 経費の見積り 及び 維持方法 の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	開設年度、完成年度の図書 購入費について、基礎となる 学位又は学科の分野（経済 学関係、理学関係、工学 関係）の平均金額を計上し ていたため、令和5年度学 部予算額に修正（5） 令和5年度予算額に置き換 えたため（5）
	教員1人当り 研究費等	562千円 507千円	562千円 507千円	図書購入費	10,907千円 2,685千円	10,907千円 2,685千円	10,907千円 2,685千円	
	共同研究費等	79,522千円 82,022千円	79,522千円 82,022千円	設備購入費	75,808千円	75,808千円 75,387千円	75,808千円 75,387千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 767.8千円 867.8千円	第2年次 535.8千円	第3年次 535.8千円	第4年次 535.8千円	第5年次 千円	第6年次 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金をもって充当する						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋市立大学					平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
データサイエンス学部	4	80	-	80	-	1.00	-	1.00	-	-	令和5	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町宇山の畑1番地	
データサイエンス学科	4	80	-	80	学士(データサイエンス)	1.00	-	1.00	-	-	令和5		
医学部	6	97	-	582	-	1.00	-	1.03	0.99	-	昭和25年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町宇山川1番地	
医学科	6	97	-	582	学士(医学)	1.00	-	1.03	0.99	-	昭和25年度		
薬学部		115	-	565	-	1.06	1.05	1.00	-	-		愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地	入学定員変更 (R2年度 100→R3年度 115)
薬学科	6	65	-	375	学士(薬学)	1.05	-	1.00	-	-	平成18年度		入学定員変更 (R2年度 60→R3年度 65)
生命薬科学科	4	50	-	190	学士(薬科学)	1.04	1.03	1.00	0.98	-	平成18年度		入学定員変更 (R2年度 40→R3年度 50)
経済学部	4	265	-	960	-	1.03	1.02	1.05	1.01	-		愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町宇山の畑1番地	入学定員変更 (R3年度 230→R4年度 235→R5年度 265)
公共政策学科	4	104	-	376	学士(経済学)	1.03	-	-	-	-	平成19年度		入学定員変更 (R3年度 90→R4年度 92→R5年度 104)
マネジメントシステム学科	4	92	-	334	学士(経営学)	1.03	1.02	-	-	-	平成19年度		入学定員変更 (R3年度 80→R4年度 82→R5年度 92)
会計ファイナンス学科	4	69	-	250	学士(経営学)	1.03	-	-	-	-	平成19年度		入学定員変更 (R3年度 60→R4年度 61→R5年度 69)
人文社会学部	4	205	12	811	-	1.04	1.04	1.09	1.04	-		愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町宇山の畑1番地	入学定員変更 (R4年度 194→R5年度 205)
心理教育学科	4	64	2	245	学士(人文社会学)	1.04	1.03	1.08	1.04	-	平成25年度		入学定員変更 (R4年度 59→R5年度 64)
現代社会学科	4	70	6	283	学士(人文社会学)	1.06	-	1.09	1.06	-	平成25年度		入学定員変更 (R4年度 67→R5年度 70)
国際文化学科	4	71	4	283	学士(人文社会学)	1.02	-	1.10	1.02	-	平成25年度		入学定員変更 (R4年度 68→R5年度 71)
芸術工学部	4	100	-	400	-	1.01	-	1.06	1.01	-		愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
情報環境デザイン学科	4	30	-	120	学士(芸術工学)	1.01	-	1.08	1.00	-	平成24年度		
産業イノベーションデザイン学科	4	30	-	120	学士(芸術工学)	1.01	-	1.07	1.03	-	平成24年度		
建築都市デザイン学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.01	-	1.03	1.01	-	平成24年度		
看護学部	4	80	-	360	-	1.00	-	1.00	1.00	-	平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町宇山川1番地	
看護学科	4	80	-	360	学士(看護学)	1.00	-	1.00	1.00	-	平成11年度		入学定員変更 (R4年度 80→R5年度 120)
総合生命理学部	4	43	-	172	-	1.07	-	1.05	1.04	-	平成30年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町宇山の畑1番地	
総合生命理学科	4	43	-	172	学士(理学)	1.07	-	1.05	1.04	-	平成30年度		
大学全体	-	1,025	3年次12	3,930	-	1.02	1.02	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 - なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 - なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<データサイエンス学部 データサイエンス学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	経営学：企業活動の諸相 データサイエンス入門※ 線形代数学1(行列と行列式) 統計分析基礎2(確率論、推測統計基礎) 統計分析基礎3(推測統計展開) 実践データサイエンス活用(特別講義) 確率統計解析※ 金融工学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)※ データ構造とアルゴリズム論 実践データサイエンス活用(特別講義) 画像処理とパターン認識※ 人間工学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 線形代数学2(線形空間論) データマイニング※ 多変量解析2(主成分・因子分析、判別分析)※ 計測装置・自然観測論 ビッグデータ活用※ PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 微積分学1(1変数の微積分学) 情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)※ 数理モデルとシミュレーション 確率統計解析※ 計算機シミュレーション PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	データサイエンス入門※ 線形代数学1(行列と行列式) 統計分析基礎2(確率論、推測統計基礎) 統計分析基礎3(推測統計展開) 実践データサイエンス活用(特別講義) 確率統計解析※ 金融工学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)※ データ構造とアルゴリズム論 実践データサイエンス活用(特別講義) 画像処理とパターン認識※ 人間工学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 線形代数学2(線形空間論) データマイニング※ 多変量解析2(主成分・因子分析、判別分析)※ 計測装置・自然観測論 ビッグデータ活用※ PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 微積分学1(1変数の微積分学) 情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)※ 数理モデルとシミュレーション 確率統計解析※ 計算機シミュレーション PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	情報処理1 (R, Python, Excelマクロスクリプト作成) ※ データサイエンス入門※ 統計分析基礎1 (記述統計と多変量解析の基礎) 財務情報と経営分析 ビッグデータ活用※ 財務情報分析 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 多変量解析1 (回帰分析) マクロ経済学※ ベイズ統計 計量経済学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	情報処理1 (R, Python, Excelマクロスクリプト作成) ※ データサイエンス入門※ 実験計画法 医療とデータサイエンス※ データ調査技法 レギュラトリーサイエンス PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 機械学習基礎 人工知能概論 機械学習発展※ PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 微積分学2 (多変数関数と応用解析) 情報科学概論 情報数学 応用情報数学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	情報処理1 (R, Python, Excelマクロスクリプト作成) ※ データサイエンス入門※ 統計分析基礎1 (記述統計と多変量解析の基礎) 財務情報と経営分析 ビッグデータ活用※ 財務情報分析 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 多変量解析1 (回帰分析) マクロ経済学※ ベイズ統計 計量経済学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	情報処理1 (R, Python, Excelマクロスクリプト作成) ※ データサイエンス入門※ 実験計画法 医療とデータサイエンス※ データ調査技法 レギュラトリーサイエンス PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 機械学習基礎 人工知能概論 機械学習発展※ PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	教授	データサイエンス入門※ 微積分学2 (多変数関数と応用解析) 情報科学概論 情報数学 応用情報数学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	
		データサイエンス入門※ データベース データマイニング※ 機械学習発展※ 情報アクセスシステム PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	准教授	
		データサイエンス入門※ 医療とデータサイエンス※ 多変量解析2(主成分・因子分析、判別分析)※ ビッグデータ活用※ 応用統計(医療統計) 社会医療情報 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	准教授	
		情報処理1(R, Python, Excelマクロスクリプト作成)※ データサイエンス入門※ データ処理と可視化 医療とデータサイエンス※ 健康情報学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	准教授	
		データサイエンス入門※ 情報の法とセキュリティ※ テキストマイニング 情報処理3(C言語・Pythonプログラミング) 画像処理とパターン認識※ PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	講師	
		データサイエンス入門※ 情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)※ ミクロ経済学 マクロ経済学※ 応用経済理論 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	
		データサイエンス入門※ データベース データマイニング※ 機械学習発展※ 情報アクセスシステム PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	准教授	
		データサイエンス入門※ 医療とデータサイエンス※ 多変量解析2(主成分・因子分析、判別分析)※ ビッグデータ活用※ 応用統計(医療統計) 社会医療情報 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	准教授	
		情報処理1(R, Python, Excelマクロスクリプト作成)※ データサイエンス入門※ データ処理と可視化 医療とデータサイエンス※ 健康情報学 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	准教授	
		データサイエンス入門※ 情報の法とセキュリティ※ テキストマイニング 情報処理3(C言語・Pythonプログラミング) 画像処理とパターン認識※ PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2
専	講師	
		データサイエンス入門※ 情報処理2(C++プログラミング、R、Python統計)※ ミクロ経済学 マクロ経済学※ 応用経済理論 PBL演習1 PBL演習2 PBL演習3 PBL演習4 卒業研究1 卒業研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		情報の法とセキュリティ※ 日本国憲法
兼任	教授	
		ベンチャー経営
兼任	教授	
		財政学
兼任	教授	
		国際経済学
兼任	教授	
		マーケティングサイエンス
兼任	教授	
		社会人になるA 社会人になるB 健康・スポーツ科学※
兼任	教授	
		社会学A※
兼任	教授	
		社会学B
兼任	教授	
		平和論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		情報の法とセキュリティ※ 日本国憲法
兼任	教授	
		ベンチャー経営
兼任	教授	
		財政学
兼任	教授	
		国際経済学
兼任	准教授	
		マーケティングサイエンス
兼任	教授	
		社会人になるA 社会人になるB 健康・スポーツ科学※
兼任	教授	
		社会学A※
兼任	教授	
		社会学B
兼任	講師	
		平和論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		フィールド研究からみるアジア※
兼任	教授	
		キー・コンピテンシー
兼任	教授	
		東ヨーロッパの文化と歴史
兼任	教授	
		自分とみんなで考える哲学
兼任	教授	
		心理学入門
兼任	教授	
		現代教育の諸相※
兼任	教授	
		次世代育成と地域の課題※
兼任	教授	
		次世代育成と地域の課題※
兼任	教授	
		宗教学入門

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		キー・コンピテンシー
兼任	教授	
		東ヨーロッパの文化と歴史
兼任	教授	
		自分とみんなで考える哲学
兼任	教授	
		心理学入門
兼任	教授	
		現代教育の諸相※
兼任	教授	
		次世代育成と地域の課題※
兼任	教授	
		次世代育成と地域の課題※
兼任	教授	
		宗教学入門

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		宇宙のなりたち
兼任	教授	
		植物とバイオテクノロジー
兼任	教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	教授	
		バイオサイエンス入門※
兼任	教授	
		バイオサイエンス入門※
兼任	教授	
		情報と数理の世界※
兼任	教授	
		情報と数理の世界※
兼任	教授	
		情報と数理の世界※
兼任	教授	
		CS: Grammar and Usage

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		宇宙のなりたち
兼任	教授	
		植物とバイオテクノロジー
兼任	教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	教授	
		バイオサイエンス入門※
兼任	教授	
		バイオサイエンス入門※
兼任	教授	
		情報と数理の世界※
兼任	教授	
		情報と数理の世界※
兼任	教授	
		情報と数理の世界※
兼任	教授	
		CS: Grammar and Usage

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		フランス語初級1 フランス語初級2
兼任	教授	
		金融論
兼任	教授	
		経営戦略
兼任	教授	
		情報と数理の世界※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		フランス語初級1 フランス語初級2 現代教育の諸相※
兼任	教授	
		金融論 経済学：経済と社会
兼任	教授	
		経営戦略
兼任	教授	
		経営学：企業活動の諸相※
兼任	教授	
		環境行動学と情報リテラシー※
兼任	教授	
		環境行動学と情報リテラシー※
兼任	教授	
		環境行動学と情報リテラシー※
兼任	教授	
		都市と自然※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	経済学：経済学の考え方
兼任	准教授	経営学：組織を取り巻く諸環境について※
兼任	准教授	経営学：組織を取り巻く諸環境について※
兼任	准教授	平和論※
兼任	准教授	平和論※
兼任	准教授	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治
兼任	准教授	フィールド研究からみるアジア※ EM: Reading for Inspiration

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	都市と自然※
兼任	准教授	経済学：経済学の考え方
兼任	准教授	経営学：組織を取り巻く諸環境について※ 経営学：企業活動の諸相※
兼任	准教授	経営学：組織を取り巻く諸環境について※ 経営学：企業活動の諸相※
兼任	准教授	平和論※
兼任	准教授	平和論※
兼任	准教授	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治
兼任	准教授	EM: Reading for Inspiration

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		フィールド研究からみるアジア※ EM: Online Articles and Videos
兼任	准教授	
		心理学概論
兼任	准教授	
		現代教育の諸相※
兼任	准教授	
		都市と自然
兼任	准教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	准教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	准教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	准教授	
		バイオサイエンス入門※
兼任	准教授	
		経済学：経済のしくみ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	准教授	
		心理学概論
兼任	准教授	
兼任	准教授	
		都市と自然※
兼任	准教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	准教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	准教授	
		エネルギーのサイエンス※
兼任	准教授	
		バイオサイエンス入門※
兼任	准教授	
		経済学：経済のしくみ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		情報と数理の世界※
兼任	准教授	
		情報と数理の世界※
兼任	准教授	
		EM: World News
兼任	准教授	
		EM: Popular Culture
兼任	准教授	
		健康・スポーツ科学
兼任	講師	
		経済学：経済と社会
兼任	講師	
		社会学C

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		情報と数理の世界※
兼任	准教授	
		EM: World News
兼任	准教授	
		EM: Popular Culture
兼任	准教授	
		健康・スポーツ科学
兼任	准教授	
		日本国憲法
兼任	准教授	
		CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	
		社会学C

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		環境行動学と情報リテラシー
兼任	講師	
		EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	
		情報と数理の世界※
兼任	講師	
		情報通信基礎とIoT
兼任	講師	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題
兼任	講師	
		E S Dと地域の環境
兼任	講師	
		なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	
		人と法と医療※
兼任	講師	
		人と法と医療※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		環境行動学と情報リテラシー※
兼任	講師	
		イタリア語入門
兼任	講師	
		情報と数理の世界※
兼任	講師	
		情報通信基礎とIoT
兼任	講師	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題
兼任	講師	
		E S Dと地域の環境
兼任	講師	
		なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	
		人と法と医療※
兼任	講師	
		人と法と医療※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		社会学A※
兼任	講師	
		フィールド研究からみるアジア※
兼任	講師	
		人類学
兼任	講師	
		日本語コミュニケーション
兼任	講師	
		囲碁に学ぶ
兼任	講師	
		欧州史の中の北欧史
兼任	講師	
		アメリカ史入門
兼任	講師	
		都市と地域構造の地理学
兼任	講師	
		科学史

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		社会学A※
兼任	講師	
		人類学
兼任	講師	
		日本語コミュニケーション
兼任	講師	
		囲碁に学ぶ
兼任	講師	
		欧州史の中の北欧史
兼任	講師	
		アメリカ史入門
兼任	講師	
		都市と地域構造の地理学
兼任	講師	
		科学史

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	エネルギーのサイエンス※
兼任	講師	地球史入門
兼任	講師	地域生態学
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community CS: Presentation
兼任	講師	IS: Life & Work AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	IS: Health & Well-being AE: Raise Health/ Environmental Awareness CS: Presentation
兼任	講師	IS: The Arts AE: Produce a Movie CS: Presentation

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	エネルギーのサイエンス※
兼任	講師	地球史入門
兼任	講師	地域生態学
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community CS: Presentation
兼任	講師	IS: Life & Work AE: Interact Internationally CS: Presentation EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	IS: Health & Well-being AE: Raise Health/ Environmental Awareness CS: Presentation
兼任	講師	IS: The Arts AE: Produce a Movie CS: Presentation

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		AE: Improve Life Skills EM: World News EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	
		CS: Presentation AE: Interact Internationally IS: The Arts
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage
兼任	講師	
		CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	
		CS: TOEIC Preparation EM: World News
兼任	講師	
		CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	
		EM: World News

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		EM: World News
兼任	講師	
		CS: Presentation IS: Health & Well-being AE: Make a Difference in Your Community
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage
兼任	講師	
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage
兼任	講師	
		CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	
		CS: TOEIC Preparation EM: World News
兼任	講師	
		CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	
		EM: World News

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		EM: Popular Culture
兼任	講師	
		EM: Popular Culture
兼任	講師	
		EM: Popular Culture EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	
		EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		EM: Popular Culture
兼任	講師	
		EM: Popular Culture
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
兼任	講師	
		EM: Reading for Inspiration CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1
兼任	講師	
		フランス語初級 1 フランス語初級 2
兼任	講師	
		フランス語初級 1
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2
兼任	講師	
		ドイツ語初級 1
兼任	講師	
		フランス語初級 1 フランス語初級 2
兼任	講師	
		フランス語初級 1
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		中国語初級 1
兼任	講師	
		韓国語初級 1 韓国語初級 2
兼任	講師	
		韓国語初級 1 韓国語初級 2
兼任	講師	
		韓国語初級 1
兼任	講師	
		スペイン語初級 1 スペイン語初級 2
兼任	講師	
		スペイン語初級 1 スペイン語初級 2
兼任	講師	
		スペイン語初級 1
兼任	講師	
		日本語初級 1 日本語初級 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		韓国語初級 1 韓国語初級 2
兼任	講師	
		韓国語初級 1 韓国語初級 2
兼任	講師	
		スペイン語初級 1 スペイン語初級 2
兼任	講師	
		スペイン語初級 1 スペイン語初級 2
兼任	講師	
		スペイン語初級 1 スペイン語初級 2
兼任	講師	
		日本語初級 1 日本語初級 2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		日本手話初級 1 日本手話初級 2
兼任	講師	
		日本手話初級 1
兼任	講師	
		ポルトガル語入門
兼任	講師	
		ロシア語入門
兼任	講師	
		イタリア語入門
兼任	講師	
		アラビア語入門
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		日本手話初級 1 日本手話初級 2
兼任	講師	
		日本手話初級 1 日本手話初級 2
兼任	講師	
		ポルトガル語入門
兼任	講師	
		ロシア語入門
兼任	講師	
		アラビア語入門
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		健康・スポーツ科学※

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage EM: World News
兼任	講師	
		EM: Popular Culture EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	
		韓国語初級1 韓国語初級2
兼任	講師	
		日本手話初級1

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

1. 専任教員について
 - ・「経営学：企業活動の諸相」が経済学研究科の提供科目であるため、教授がデータサイエンス学部に移籍したことにより、担当教員を教授（専任）から教授（兼任）、准教授（兼任）、准教授（兼任）のオムニバス科目に変更。
2. 兼任・兼任教員について
 - ・記載誤りがあったため、准教授（兼任）の職位を修正。
 - ・教授（兼任）退任により、講師（兼任）として担当。
 - ・教授（兼任）の都合により「フィールド研究とアジア」を未開講とし、オムニバス科目のため、教授（兼任）、准教授（兼任）、講師（兼任）の担当を削除。
 - ・「現代教育の諸相」の担当教員を准教授（兼任）から教授（兼任）に変更。
 - ・「経済学：経済と社会」の担当教員を講師（兼任）から教授（兼任）に変更。
 - ・「情報と数理の世界」の担当教員数を変更（7名→5名（教授（兼任）及び准教授（兼任）を担当から削除））
 - ・「環境行動学と情報リテラシー」の担当教員を追加（1名→4名（教授（兼任）、教授（兼任）、教授（兼任）追加）し、オムニバス科目に変更。
 - ・「都市と自然」の担当教員を追加（1名→3名（教授（兼任）、教授（兼任）追加）し、オムニバス科目に変更。
 - ・「経済学：経済学の考え方」の担当教員を准教授（兼任）から准教授（兼任）に変更。
 - ・前期・後期開講の「日本国憲法」の後期の担当教員を教授（兼任）から准教授（兼任）に変更。
 - ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「CS: TOEIC Preparation」に准教授（兼任）就任。また、講師（兼任）の担当科目に追加。
 - ・講師（兼任）の就任辞退により、講師（兼任）の担当科目を「EM: Reading for Inspiration」から「イタリア語入門」に変更。また、「EM: Reading for Inspiration」について、講師（兼任）の担当科目に追加、講師（兼任）の担当科目より削除。また、講師（兼任）の退任により、講師（兼任）が就任。
 - ・講師（兼任）の担当辞退により「AE: Improve Life Skills」を削除。
 - ・講師（兼任）辞任により、講師（兼任）が就任し「IS: Social Justice」「AE: Make a Difference in Your Community」「CS: Presentation」を担当。
 - ・講師（兼任）の担当辞退により「AE: Interact Internationally」「IS: The Arts」を削除。
 - ・講師（兼任）の退任により、「CS: Grammar and Usage」の担当教員に講師（兼任）及び講師（兼任）が就任。
 - ・講師（兼任）の担当辞退により「EM: Popular Culture」の担当教員に講師（兼任）が就任。
 - ・講師（兼任）の退任により、「中国語初級1」の担当教員減変更（6名→5名）。
 - ・講師（兼任）の退任により、講師（兼任）が就任し「韓国語初級1」「韓国語初級2」を担当。
 - ・講師（兼任）が「スペイン語初級2」の担当教員に就任。
 - ・講師（兼任）が「日本手話初級2」の担当教員に就任。
 - ・講師（兼任）が「日本手話初級1」の担当教員に就任。
 - ・講師（兼任）及び講師（兼任）の2名が「健康・スポーツ科学」の担当教員就任辞退。
 - ・「EM: World News」の担当教員に講師（兼任）が就任。
 - ・講師（兼任）が「EM: Online Articles and Videos」の担当教員に就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
9	4	1	0	14	0	9	4	1	0	14	0
(9)	(4)	(1)	(0)	(14)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
9	4	1	0	14	0	9	4	1	0	14	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要するのみであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{14} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{14} = \boxed{21.42} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{0}{\quad} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届出時 (令和4年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想を策定し、着実に実行すること。	【届出】 今後の教員人事等において適切に対応する。(5)	完成年度までに定年を迎える教員について、本学では、学部、大学院研究科等の設置に伴い、その開設される学部・学科又は研究科・専攻の専任教員となる者の定年については、学部、大学院研究科等の開設後、学年進行が終了する年度まで定年の年齢を引き上げる特例を設けており、完成年度までは雇用を継続することができる。 教員組織について、学部の運営状況を鑑みながら、各教員の教育研究実績等を踏まえた学内昇任を行ったり、優秀な教員の採用を行ったりするなど、教員組織の維持・向上に努める。 教育組織編製の将来構想を引き続き検討する。(5)

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和4年度は、全学教育機構会議を8回開催した（うち1回はメール会議）。委員会には、全ての研究科から教員が参加している。

c 委員会の審議事項等

- 教養教育及び専門教育の一体的な推進に関する事
- 全学教育プログラムに係る企画、立案及び実施に関する事
- 学部・研究科横断型教育プログラムの推進に関する事
- 専門教育及び大学院教育に係る理念、教育体制のあり方、連携その他諸課題に関する事
- 高等教育院の所管事業に係る各学部及び研究科との連携調整に関する事
- 学生に対する学修支援に関する事
- 情報通信技術を活用した教育支援に関する事
- その他機構が必要と認める事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査
- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）
- ・ 新任教員研修
- ・ FD講演会
- ・ 教育改革フォーラム
- ・ 教育研究支援に資する研修

b 実施方法

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査

教育内容や教育環境に対する学生の意向を把握するため、平成19年より毎年度大学満足度調査を実施し、結果を本学ウェブサイト（学内限定ページ）で公表している。

- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）

学生に対する授業評価アンケートの総合評価等を踏まえて実施科目を選出し、参観教員からアンケートをとり、授業担当教員にフィードバックしている。

- ・ 新任教員研修

新任教員を対象に、毎年4月に実施している。実施後は速やかに本学HPへ研修の様式や成果を掲載している。

- ・ FD講演会

全学対象の講演会・講習会を各年1回程度開催し、各学部・研究科の教員が参加している。開催後、速やかに本学HPへ講演会・講習会の様式や成果を掲載するとともに、参加者からアンケートをとり、その結果を分析し次回の改善に充てている。

- ・ 教育改革フォーラム

全学的なFD推進活動の一環として、教育改革に関するフォーラムを開催している。各回でテーマを設定し、教員・職員を交えた講演、グループ討論、パネルディスカッション等を実施している。

- ・ 教育研究支援に資する研修

大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識等を身につけ、能力及び資質の向上を図るための研修、教職員として求められるマネジメント能力、コミュニケーション能力、事務処理能力等の向上を図るための研修などに体系的に取り組んでいる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 新任教員研修

令和4年度は4月28日に開催し、新任教員22名が参加した。資料をイントラに掲載。

- ・ FD講演会

令和4年度は令和5年2月13日にZoomにて開催し、教職員56名が参加した。

- ・ 教育改革フォーラム

令和4年度は11月28日に開催し、教職員41名が参加した。

- ・ 教育研究支援に資する研修
令和4年度の主な開催実績は以下のとおり。
 - ・新規採用者研修(Web)／教職員 135名受講 ※大学の管理運営に必要な知識に関する研修
 - ・ワーク・ライフ・バランス講演会(3月17日開催)／教職員(学生・一般含む) 41名参加
 - ・ダイバーシティ推進セミナー(1月26日開催)／教職員(学生含む) 119名参加
- 令和5年度の主な開催実績は以下のとおり。
 - ・新規採用者研修(Web)／教職員 370名受講 ※大学の管理運営に必要な知識に関する研修

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各部局での分析、改善方法の検討結果を全学教育機構会議で報告している。また、当年度末までに行った具体的な取り組み内容について各部局に報告を義務付けている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

中間アンケート：学期の中間の時期に実施している。各学期末に実施し、期間後半の授業改善に役立てている。
自己評価・成長実感アンケート：各学期末に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート集計結果は各教員に通知するとともに、結果に対するコメントや次期授業に向けた改善案の提出を教員に対して義務づけている。アンケート結果については、教員からのフィードバックコメントとあわせて、本学ウェブサイト(学内限定ページ)で公表している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

加速的に進展する社会のデジタル化とともに、AIなどの情報工学や統計学などの知識・技術を活用して、大量かつ多様なデジタル・データから新たな知見を導き出す学問である、「データサイエンス」の必要性が高まっている。こうした社会の状況を踏まえ、データサイエンスを通じて社会や実務、学術分野における、様々な課題の解決に取り組むことができる人材の育成、および当分野の研究や学内・外連携の体制強化のため、令和5年4月、本学8番目の学部として、データサイエンス学部(専任教員14名、学生定員1学年80名)が設置されるに至った。

令和5年度は新設1年目に当たる。専任教員については令和5年4月1日付で内定教員14名全員が着任するとともに、学生についても、定員通り第一期生80名を迎えた。入試の状況については、主として共通テストと内申書を活用する、推薦入試枠30名(含、名古屋市立高等学校推薦枠3名)に対しては54名の志願者、共通テストと個別入試による一般入試枠50名に対しては134名の志願者であった。その結果、合計80名定員に対し志願者188名、約2.4倍の志願倍率であった。限られた期間での広報活動の中であって、2倍を超える志願者を得たことは、データサイエンスという学問への注目の高さと本学データサイエンス学部への期待の証左と考えている。

学内・外連携の状況としては、全学教育の中で他学部生向けに「データサイエンスへの誘い」、情報系科目として「データサイエンス・リテラシー」を開講し、学内におけるデータサイエンス教育の強化に努めている。学外との連携については、名古屋市各局を中心に、データサイエンス関係の講師派遣、受託研究等による連携事業が計画されている。なお教育・研究力強化の一環として、将来の大学院設置を見据えた、公的な大型事業資金(大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援))にも組織として応募している。

今後も本学部の設置目標達成に向け、引き続き努力して参りたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和5年3月 公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表している

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に認証評価を受審し、令和5年3月に【一般財団法人大学教育質保証・評価センターが実施した大学機関別認証評価において大学評価基準を満たしている。】と評価された。次回は、令和10年度に受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

名古屋市立大学全学教育機構規程

(趣旨)

第1条 名古屋市立大学において、教育の質を管理し、あわせて教養教育、専門教育及び大学院教育を体系的に行うための機関として、名古屋市立大学全学教育機構（以下「機構」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 機構は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教養教育及び専門教育の一体的な推進に関する事。
- (2) 全学教育プログラムに係る企画、立案及び実施に関する事。
- (3) 学部・研究科横断型教育プログラムの推進に関する事。
- (4) 専門教育及び大学院教育に係る理念、教育体制のあり方、連携その他諸課題に関する事。
- (5) 高等教育院の所管事業に係る各学部及び研究科との連携調整に関する事。
- (6) 学生に対する学修支援に関する事。
- (7) 情報通信技術を活用した教育支援に関する事。
- (8) その他機構が必要と認める事項。

(一部改正 平成30年達第37号)

(開設)

第3条 機構は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 理事（教育）
- (2) 高等教育院長
- (3) 各研究科及びデータサイエンス学部から選出された教授で、学長が任命する者
- (4) 教育研究部長
- (5) 教務企画室長
- (6) 学部事務室（山の畑事務室を含む。）の事務長
- (7) 医療人育成課長
- (8) その他第4条に規定する機構長が必要と認めた者

(一部改正 平成30年達第37号、平成31年達第63号、令和2年達第81号、令和3年達第80号、令和4年達第63号、令和5年達第19号)

(機構長)

第4条 機構に機構長を置き、理事（教育）をもって充てる。

2 機構長は、学長の命を受け、機構の業務を統括する。

(一部改正 平成30年達第37号、令和2年達第81号、令和4年達第63号)

(副機構長)

第5条 機構に副機構長を置き、高等教育院長をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長が欠けたとき又は事故があるときは、その職務を代理する。

(一部改正 平成30年達第37号)

(任期等)

第6条 第3条第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項に規定する委員に欠員が生じた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集及び議事)

第7条 機構の会議は、機構長がこれを招集し、機構長がその議長となる。

2 機構は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 第1項の会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 議長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(議事の特例)

第7条の2 議長が必要と認めるときは、委員に書面を送付し又は電子メールを送信し、その意見を徴し又は可否を問い、その結果をもって会議の議決に代えることができる。

2 前条の規定は、前項の規定による書面又は電子メールによる審議について準用する。この場合において、同条第2項中「機構」とあるのは「機構の会議における審議」と、「の出席がなければ、会議を開くことができな

い」とあるのは「から議長が定めた期日内に書面又は電子メールにより回答がなければ成立しない」と、同条第3項中「出席者」とあるのは「書面又は電子メールにより回答のあった委員」と、同条第4項中「会議に委員以外の者を出席させ」とあるのは「第2項に規定する審議において、委員以外の者に書面又は電子メールにより」と読み替えるものとする。

(この条追加 令和4年達第63号)

(専門委員会)

第8条 第2条各号(第5号及び第6号を除く。)に掲げる事業に係る個別の事項を推進するため、機構に専門委員会を設置することができる。

2 前項の専門委員会の運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

(一部改正 令和4年達第63号)

(庶務)

第9条 機構の庶務は、教務企画室において処理する。

(一部改正 令和3年達第80号)

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

(一部改正 令和4年達第63号)

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 名古屋市立大学大学教育推進機構規程(平成24年公立大学法人名古屋市立大学達第45号)は、廃止する。

3 名古屋市立大学教育支援センター規程(平成23年公立大学法人名古屋市立大学達第14号)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、発布の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則(平成30年公立大学法人名古屋市立大学達第37号)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年公立大学法人名古屋市立大学達第63号）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年公立大学法人名古屋市立大学達第81号）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年公立大学法人名古屋市立大学達第80号）

この規程は、発布の日から施行し、この規程による改正後のそれぞれの規程の規定は、令和3年4月1日から適用する。

附 則（令和4年公立大学法人名古屋市立大学達第63号）

この規程は、発布の日から施行し、この規程による改正後の名古屋市立大学全学教育機構規程の規定は、令和4年4月1日から適用する。

附 則（令和5年公立大学法人名古屋市立大学達第19号）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

名古屋市立大学高等教育院規程

目次

- 第1章 総則（第1条－第3条）
 - 第2章 組織（第4条・第5条）
 - 第3章 運営会議（第6条－第8条）
 - 第4章 委員会等（第9条－第12条）
 - 第5章 その他（第13条・第14条）
- 附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第5条の規定に基づき設置する名古屋市立大学高等教育院（以下「高等教育院」という。）の管理及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 高等教育院は、教養教育及び全学語学教育の企画及び実施について統括するとともに、教育及び学生支援情報を管理し、その活用を図ることにより、名古屋市立大学（以下「本学」という。）における教育改革を全学的に推進することを目的とする。

（事業）

第3条 高等教育院は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 全学教育改革の推進に関すること。
- (2) 教育の質保証に関すること。
- (3) 初年次教育の企画に関すること。
- (4) 教養教育に関すること。
- (5) 全学語学教育に関すること。
- (6) 教学に関するIR（本学における様々な情報を収集、分析することにより、学内の意思決定や改善活動を支援する取り組み（インスティテューショナル・リサーチ）をいう。）に関すること。
- (7) 全学的に行うFD（教育方法等を改善するための組織的な研究、研修等に取り組む活動（ファカルティ・ディベロップメント）をいう。以下同じ。）に関すること。
- (8) 教育支援に係るSD（大学等の運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修等の取り組み（スタッフ・ディベロップメント）をいう。）の推進に関すること。
- (9) 学生の育成及びキャリア教育（実務家教員養成課程にかかる事業を含む。）

に關すること。

(10) 前各号に掲げるもののほか、前条に掲げる目的を達成するために必要な事業。

- 2 前項第5号の事業は名古屋市立大学国際交流センター規程（平成20年公立大学法人名古屋市立大学達12号）に規定する国際交流センターと、前項第9号の事業（実務家教員養成課程にかかる事業を除く。）は名古屋市立大学キャリア支援センター規程（平成19年公立大学法人名古屋市立大学達7号）に規定するキャリア支援センターと連携を図りながら行うものとする。

（一部改正 令和2年達第77号）

第2章 組織

（高等教育院長等）

第4条 学則第8条第3項の規定に基づき、高等教育院に高等教育院長（以下「院長」という。）を置く。

- 2 院長は、学長の命を受け、高等教育院を代表し、その業務を統轄する。
- 3 高等教育院に高等教育院副院長（以下「副院長」という。）若干名を置くことができる。
- 4 副院長は院長を補佐し、院長が欠けたとき又は院長に事故等がありその職務を行うことができないとき、その職務を代理する。この場合において、副院長が2名以上置かれるときは、院長があらかじめ指定する順序に従いその職務を代理する。
- 5 院長及び副院長の任命については、別に定める。

（一部改正 令和2年達第77号、令和4年達第61号）

（事務組織）

第5条 高等教育院の事務は、教務企画室が行う。

（一部改正 令和4年達第61号）

第3章 運営会議

（高等教育院運営会議）

第6条 高等教育院に高等教育院運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

- 2 運営会議は次の事項を審議する。
- (1) 高等教育院運営の基本方針に關すること。
- (2) 高等教育院に關する要綱等の制定改廃に關すること。
- (3) 第3条第1項各号に掲げる事業（実務家教員養成課程にかかる事業を除く。）に關すること。
- (4) その他高等教育院に關し必要な事項。

（一部改正 令和2年達第77号）

（委員等）

第7条 運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院長

- (2) 副院長
 - (3) 高等教育院の教員
 - (4) 教務企画室長
 - (5) その他院長が必要と認めた者
- 2 院長は、運営会議を招集し、その議長となる。
 - 3 運営会議に副議長を置き、副議長は委員のうちから議長が指名する。
 - 4 議長に事故があるとき又は欠けたときは、副議長がその職務を代理する。
- (一部改正 令和4年達第61号)

(議事)

第8条 運営会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

- 2 運営会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- 3 議長が必要と認めたときは、運営会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(一部改正 令和4年達第61号)

(議事の特例)

第8条の2 運営会議の議長が必要と認めるときは、委員に書面を送付し又は電子メールを送信し、その意見を徴し又は賛否を問い、その結果をもって運営会議の議決に代えることができる。

- 2 前条の規定は、前項の規定による書面又は電子メールによる審議について準用する。この場合において、同条第1項中「運営会議」とあるのは「運営会議における審議」と、「の出席がなければ開くことができない」とあるのは「から書面又は電子メールにより回答がなければ成立しない」と、同条第2項中「出席した委員」とあるのは「書面又は電子メールにより回答のあった委員」と、同条第3項中「委員以外の者を出席させ」とあるのは「第1項に規定する審議において、委員以外の者に書面又は電子メールにより」と読み替えるものとする。

(この条追加 令和4年達第61号)

第4章 委員会等

(教養教育運営委員会)

第9条 高等教育院に教養教育運営委員会を置く。

- 2 教養教育運営委員会は次の事項を審議する。
 - (1) 教養教育に係る企画、立案及び実施に関すること。
 - (2) 教養教育に係る自己点検及び評価に関すること。
 - (3) 教養教育に係るFDの企画、立案及び実施に関すること。
 - (4) 教養教育に係る部局間協力の推進に関すること。
 - (5) 教養教育担当教員（非常勤講師を含む。）の配置に関すること。
 - (6) 教養教育に係る予算及び学修環境の整備に関すること。

(7) その他教養教育運営委員会が必要と認める事項。

(委員等)

第10条 教養教育運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 院長

(2) 第12条第2項に規定する部会長

(3) 各学部から選出された教授又は准教授 各1名

(4) 高等教育院教員のうち院長が指名する者 1名

(5) 教務企画室長

2 教養教育運営委員会に委員長を置き、院長をもって充てる。

3 委員長は、教養教育運営委員会を招集し、その議長となる。

4 第1項第3号及び第4号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(一部改正 令和2年達第77号、令和4年達61号)

(議事)

第11条 教養教育運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 教養教育運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

3 議長が必要と認めたときは、教養教育運営委員会に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(一部改正 令和4年達第61号)

(議事の特例)

第11条の2 教養教育運営委員会の議長が必要と認めるときは、委員に書面を送付し又は電子メールを送信し、その意見を徴し又は賛否を問い、その結果をもって教養教育運営委員会の議決に代えることができる。

2 前条の規定は、前項の規定による書面又は電子メールによる審議について準用する。この場合において、同条第1項中「教養教育運営委員会」とあるのは「教養教育運営委員会における審議」と、「の出席がなければ開くことができない」とあるのは「から書面又は電子メールにより回答がなければ成立しない」と、同条第2項中「出席した委員」とあるのは「書面又は電子メールにより回答のあった委員」と、同条第3項中「委員以外の者を出席させ」とあるのは「第1項に規定する審議において、委員以外の者に書面又は電子メールにより」と読み替えるものとする。

(この条追加 令和4年達第61号)

(部会)

第12条 第3条第1項第4号に掲げる事業に係る個別の事項を実施するため、教養教育運営委員会に、別表の部会を置く。

2 部会に部会長を置き、別表に規定する構成員の中から教養教育運営委員会委員長が指名する。

3 部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(一部改正 令和2年達第77号)

第5章 その他

(庶務)

第13条 運営会議及び教養教育運営委員会の庶務は、教務企画室において処理する。

(一部改正 令和4年達第61号)

(委任)

第14条 この規程に定めるもののほか、高等教育院の運営に関し必要な事項は、院長が定める。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 名古屋市立大学教養教育センター規程（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第26号）は、廃止する。

3 名古屋市立大学語学センター規程（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第27号）は、廃止する。

附 則（令和2年公立大学法人名古屋市立大学達第77号）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和4年公立大学法人名古屋市立大学達第61号）

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

別表

部会名	構 成 員
人文部会	人文系科目に関する分野の専任教員
社会部会	社会系科目に関する分野の専任教員
自然部会	自然系科目に関する分野の専任教員
語学部会	語学系科目に関する分野の専任教員
数理情報部会	数理情報系科目に関する分野の専任教員
健康科学部会	健康科学系科目に関する分野の専任教員